



K中通信

学校だより 8号
令和3年11月19日
横浜市立軽井沢中学校

【学校教育目標】『主体的に考え行動し、未来を切り拓く生徒の育成をめざします』

- 様々な関わりを通し、よりよく解決する力を育てます (知・徳・公)
- 持続可能な社会の実現を目指し、しなやかに生きる力を育てます (体・開)

学校ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/karuizawa/>

K中祭体育祭部門

校長 佐藤 由利

10月のこの時期ならば、天候の心配はそれほどないのではないかと勝手に思い込んでいましたが、体育祭が行われた週は思いのほか空模様の変化が激しい一週間でした。

度重なる延期や内容の変更、生徒の皆さんもモチベーションを保つのが難しかったと思います。分散登校明けの10月初旬は、まだコロナの状況も心配で、「限られた準備期間の中でできることを」と実行委員会の先生方にも無理をお願いしました。色別演技発表会をどうするのか。その決断は、3年生の実行委員と各色の団長にゆだねられました。「何ができるか」「どうすればできるか」第6号に書いたことですが、まさに3年生のリーダー達は、予定していた形でできないのなら、今年はこの形でいこう!と新たなアイデアを出してきてくれました。『全校で心を一つにして盛り上がるものを。』素敵なコンセプトです。直前一週間の昼食時のダンス動画の放映。日替わりで実行委員メンバーが入れ替わって出てくるのも、「みんなでやろうよ!」というメッセージが伝わってくる良いアイデアだったと思います。準備・練習時間を最小限に、という中で、どんな風に本番に向かっていくのだろうかと正直なところ心配したりもしましたが、あの「応援団企画」が体育祭への全校の雰囲気徐徐に盛り上げていってくれたように思います。だんだんに空気が温まってくるというか…。心配はいつのまにか楽しみに変わっていました。

コロナ禍ゆえに、形を変えざるを得ないこともたくさんあった体育祭。3年生や、以前からいらっしゃる先生方からみれば、いろいろな思いがあることでしょう。けれど、とてもいい体育祭でした。まだこの学校に来て一年にも満たない私ですが、「K中らしい」体育祭だな、と思いました。「体育祭」に向けて、時間をかけた準備や積み重ねはあまりできなかったけれど、だからこそ、普段みなさんが身につけてきたこと、日々の生活の中で積み重ねてきたことがとてもよく見える行事だった、とも言える気がします。「応援団企画」でのリーダーシップもさることながら、当日、とても明るく堂々と、選手宣誓を披露してくれた各色の団長さん。素晴らしい体育祭の幕開けになりました。学年種目では、いつもの穏やかな雰囲気とは打って変わった激しい綱の奪い合いに内心驚いたり感心したり…。けれど勝負がついたあとは声を掛け合い、相手を気遣う姿は、やはりいつも見ている3年生でした。この体育祭全体をリードし、閉会式が始まる前にはとても緊張した様子だったけれど、壇上では想いのこもった挨拶でしっかりと体育祭を締めくってくれた実行委員長。立派でした。

他にも、ここには書ききれない3年生の姿を、2年生はしっかり目に焼き付けて「来年は自分たちが…」と思っていることでしょう。そして、本当に全校生徒一人ひとりが、手を抜くことなく一生懸命に競技に参加する姿を見ることができて、雨に見舞われながらも、とても晴れやかな気持ちで初めての体育祭に参加することができました。保護者の皆様にも、いろいろな面でご理解やお力添えをいただき、感謝申し上げます。ありがとうございました。